

令和7年度 第2回 言語聴覚療法学科教育課程編成委員会 議事録

日 時：令和8年2月18日（水） 10：00～11：00

開催形式：オンライン（ZOOM）

出席者：（委員）

市川 勝（北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻講師
一般社団法人神奈川県言語聴覚士会 副会長）

畠田 将行（江東リハビリテーション病院リハビリテーション科 科長
公益社団法人東京都理学療法士協会 代議員）

（学校）

東 康祐（日本福祉教育専門学校 通学事業部 部長）

馬目 雪枝（日本福祉教育専門学校 言語聴覚療法学科 学科長）

浜田 智哉（日本福祉教育専門学校 言語聴覚療法学科）

西原 新吾（日本福祉教育専門学校 教学マネジメント推進課）

丸山 航也（日本福祉教育専門学校 教学マネジメント推進課）

（敬称略）

議 事

1. 大学教育機関における、ゼミ選び・大学院進学・卒後勉強会について（市川委員）
2. 臨床現場における新人研修・研究支援体制について（畠田委員）
3. 両委員からの提案を踏まえた、次年度の本校のカリキュラム・卒後教育の方針（浜田委員）
4. 総合討論

1. 開会および会議の目的

今回のテーマである「卒後教育」について、言語聴覚士養成校指定規則の改定に伴い、新設される科目「言語聴覚療法管理学」において、生涯教育およびキャリア形成に関する教育内容の充実が求められている。本委員会では、卒前教育から就職後のキャリア形成までを見据えた教育のあり方について検討することを目的とした。

2. 委員による発表

（1）養成機関における取り組み（市川委員）

日本言語聴覚士協会が策定したキャリアアップラダーおよび、2027年度から開始予定の新生涯学習制度（単位制への移行、専門言語聴覚士制度の新設等）について説明があった。

また、卒前教育の段階からセルフマネジメント能力（学習計画、時間管理、内省等）を育成する重要性が示された。具体的な方法として、生活時間の記録による学習時間の可視化や内省機会の設定などが紹介された。さらに、養成校が卒業後の学びを支える役割を担うことの意義についても言及があった。

(2) 臨床現場における取り組み（畠田委員）

新人教育の取り組みとして、Mini-CEX（臨床技能評価）の導入について説明があった。入職1・2年目職員を対象に年2回実施し、実際の治療場面を観察しながら評価とフィードバックを行うことで、臨床能力の向上を図っており、導入の結果、職員の成長過程の把握につながっていることが報告された。

3. 本校の現状と今後の取り組み案（浜田委員）

本校における卒後教育の現状について説明があった。卒業生研究会を実施しているが、参加者の固定化や内容の高度化により、新規参加者が参加しにくい状況があり、また、在校生に対する生涯教育関連授業のみでは卒業後の学びや臨床現場の実際を十分に伝えることが難しいとの課題が示された。

これらを踏まえた取り組みとして、在校生と卒業生が合同で参加するオンラインゼミを定期的で開催する案が提案された。卒前・卒後の交流機会を設けることで、学生が将来のキャリア形成を具体的にイメージできる機会を創出することを目的とする。

4. 総合討論

委員より、協会入会の動機付けとして、損害賠償責任保険の付帯など具体的なメリットを学生に伝えることが有効であるとの意見があった。

また、継続的な学習を促す仕組みとして、資格取得や研修参加を評価する制度の重要性についても意見が共有された。

以上

（文責：日本福祉教育専門学校）